

【撮影OK！（一部を除く）】 5月1日（金）お得な前売券販売開始！

マリメッコ展 模様のちから

Marimekko: Art of Printmaking -Beauty, Dream, Love

会期 | 2026年7月4日（土）～2026年9月6日（日） 会場 | 京都文化博物館 4・3階展示室

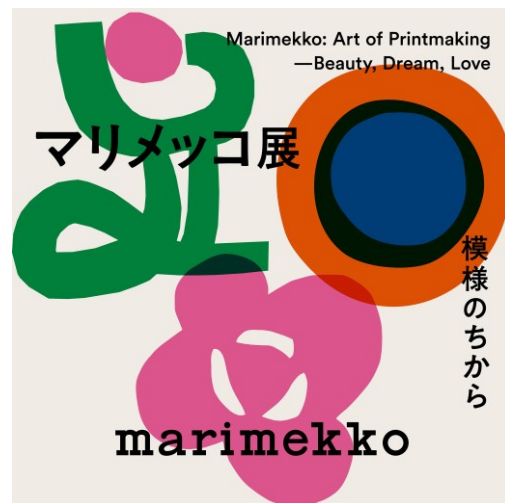
京都文化博物館（京都・三条高倉）にて、2026年7月4日（土）～9月6日（日）の期間、フィンランドのデザインハウス「マリメッコ」の世界を体感できる巡回展「マリメッコ展 模様のちから Marimekko: Art of Printmaking -Beauty, Dream, Love」を開催いたします。

—企画意図—

フィンランド生まれのマリメッコは、ファッションやインテリアの枠を超え、新しいライフスタイルやコンセプトを提案するデザインハウスです。1951年の創業以来、デザイナーのアイデアや思想を重視した製品づくりを行い、毎日の暮らしに彩り、喜び、前向きな心をもたらすことをミッションとするヴィジョンを世界に向けて発信し展開し続けてきました。これまで生まれた3,500種類以上の独自のプリントデザインは、人々のファッションや暮らしを彩り、また時には過去のデザインが再構築されることでタイムレスな魅力を放ちます。日本でも世代を超えて長く愛され続けてきました。

本展は、マリメッコの創業者であるアルミ・ラティアの言葉を手がかりに、様々な年代のドレスやアートワーク、ファブリックを通じて、マリメッコの創造の美学、また継承されるプリントメイキングの技に多角的な視点から光を当てることで、マリメッコの世界へ来場者を誘い、「模様のちから」を伝えます。

会場では、アートユニット・plaplaによって、デザインが産声を上げるヘルシンキにあるマリメッコ自社の「プリント・ファクトリー」を映像とプロジェクションにより展示。手仕事のぬくもりと映像表現が融合する空間で、創造のプロセスを表現します。さらに、デザイナー・皆川 明によるインスタレーションも見どころのひとつです。マリメッコとの対話を通じ、国境を超えて共鳴し合うデザインをご覧ください。



[1]

[2]



マリメッコ創業者のアルミ・ラティア（旧姓アイラクシネン）は1926年、わずか14歳の時に日記にこう記しました。「責任はただ一つ——美である。現実はまだ一つ——夢である。ただ一つのカ——愛。」
この言葉は彼女の人生と多くの仕事の基盤となり、1951年に夫ヴィリヨ・ラティアと共に設立したマリメッコへと結実しました。

創業者のアルミ・ラティア（1912-1979）

開催概要

展覧会名	マリメッコ展 模様のちから Marimekko: Art of Printmaking -Beauty, Dream, Love
開催期間	2026年7月4日（土）～9月6日（日）
休館日	月曜日（ただし、7月20日は開館）、7月21日（火）
開室時間	10：00～18：00（毎週金曜は19：30まで）※入場はそれぞれ閉室の30分前まで
会場	京都文化博物館 4・3階展示室 〒604-8183 京都府京都市中京区三条高倉
主催	京都府、京都文化博物館、産経新聞社、MBSテレビ、東映
特別協力	marimekko
後援	フィンランド大使館、公益社団法人京都府観光連盟、公益社団法人京都市観光協会、KBS京都、エフエム京都
協力	S2、ヘルシンキ建築&デザイン・ミュージアム
お問合せ	京都文化博物館 Tel. 075-222-0888（代表） https://www.bunpaku.or.jp/
公式サイト	https://marimekko-ex2026-2028.jp/
公式X	marimekko_2026
公式Instagram	marimekko_ex2026_2028

チケット情報

お得な前売券は5月1日（金）10:00販売開始 ペアチケットはさらにお得！

■入場料金（税込）

〔前売／団体（20名以上）〕 一般：1,800円 大高生：1,400円 中小生：500円
〔当日券〕 一般：2,000円 大高生：1,600円 中小生：700円

※未就学児は無料（ただし、要保護者同伴）。

※学生料金でご入場の際は学生証をご提示ください。

※障がい者手帳などをご提示の方と付き添い1名までは無料。

※上記料金で2階総合展示と3階フィルムシアターもご覧いただけます（ただし、催事により別途料金が必要な場合があります）。

※前売券は2026年5月1日（金）～7月3日（金）まで販売（会期中は当日券のみの販売）。

【主なチケット販売場所】

京都文化博物館、公式オンラインチケット（e-tix）、ローソンチケット（Lコード：56468）、アソビュー！、セブンチケット（セブンコード113-787）、イープラス、近鉄駅営業所など

■お得な前売特別チケット

前売ペアチケット：3,400円（税込）

一般2枚一組のチケット。おひとりが2回使用することも可能です。

販売場所：公式オンラインチケット（e-tix）、ローソンチケット（Lコード：56468）、アソビュー！、セブンチケット（セブンコード113-787）、イープラス

販売期間：5月1日（金）10：00～7月3日（金）23：59

■グッズ付きチケット 京都会場限定・数量限定

ファブリックノートセット券 8,900円（税込）

マリメッコのファブリック（布）による装丁を施した「Marimade ノート A5」と、入場券1枚のセット。

販売場所：イープラス

販売期間：5月1日（金）10：00～予定数に達し次第終了

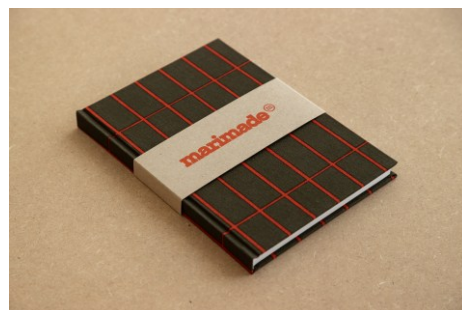
※本展入場券とグッズ引換券が別々に発券されます。両方お持ちください。

グッズは会期中に3階特設ショップでお引き換えください。

※お一人様1枚まで購入可能。

※画像はイメージです。デザインはお選びいただけません。

※「Marimade ノート A5」の3階特設ショップでの販売はありません。



関連イベント

①講演会「The Dreams Behind Printmaking～マリメッコのプリントメイキングに込められた夢」（仮）

講師：近森 基（plaplax代表）

日時：7月4日（土）10：30～12：00（予定）

会場：3階フィルムシアター

②ミュージアムズ・フォー連携講座「マリメッコ 模様のちからのうまれるまで」

講師：林 智子（京都文化博物館学芸員）

日時：7月18日（土）10：30～12：00

会場：3階フィルムシアター

③ギャラリートーク

日時：7月24日（金）、9月4日（金） 各日18：00～（30分程度）

会場：4・3階展示室内

※①②は要事前申込（申込受付は5月1日（金）10：00～）、先着順（定員150人）。③は事前申込不要。

申込・イベント詳細は京都文化博物館HPから。

※いずれも参加費無料。ただし、①②は本展入場券[半券可]が必要、③は当日の入場者に限ります。

＼おしゃべりぶんぱくDAY♪／

8月の毎週木曜日はおしゃべりしながら観覧OK！

感じたことを話したり、好きなデザインを見つけたり。みんなでマリメッコの世界を楽しみましょう。

実施日：8月6日、13日、20日、27日（木）



▲京都文化博物館HP

1. マリメッコの美学：約70点のドレスやファブリックで辿るプリントの変遷

1960年代から近年のコレクションまで、厳選された約70点のドレスが一堂に会します。「ドレスをキャンバスに」という創業者アルミ・ラティアの思想を具現化した、シルエットとプリントの融合を紹介します。

2. Art of Printmaking：プリントメイキングから生まれる模様の中から

マリメッコを象徴するアイコンックな模様は、どのようにして生まれるのか。その創作の舞台裏を、貴重な資料とともにご紹介します。自然の風景から描かれたスケッチや切り絵、そして本展のキービジュアルを飾った模様の一部の原画を展示。一枚の紙に描かれたドローイングが、人々の心を惹きつけるファブリックへと形を変えていく過程をご覧いただけます。

3. プリントが生まれる場を体感：plaplaxによる「プリント・ファクトリー」の表現

デザインが産声を上げるヘルシンキの「プリント・ファクトリー」をテーマに、アートユニット・plaplaxが新たな作品づくりに挑みます。職人の手仕事に宿る「ダイナミズム」と映像表現が融合する空間で、一つの模様がプリントとして生まれる瞬間を体感いただけます。

4. 未来への対話：皆川 明によるインスタレーション

デザイナー・皆川 明がマリメッコとの対話を重ね、独自の視点で「マリメッコ」を再解釈した新作インスタレーションを展示します。マリメッコが大切にしてきた「クリエイティブな共同体」という精神を体現するこの試みは、国境を超えた創造の対話であり、これからのデザインが持つ力を展望します。同時に、時代を超えて愛されるマリメッコ独自のアイデンティティを映し出しています。

展示構成

マリメッコとは？

Marimekko phenomenon

1951年、戦後フィンランド復興とともに、マリメッコ（「マリのドレス」の意）は生まれました。創業者のアルミ・ラティアは、夫の経営するオイルクロスのプリント工場で、若い数名のアーティストをファブリックデザイナーとして起用し、革新的なデザインを生みだしました。同年5月には大胆なファブリックの使い方を提案する初のファッションショーを開催し、成功をおさめます。50年代後半には国際的な展開を進め、60年に次期アメリカ大統領の妻ジャクリーン・ケネディが7点のドレスを購入したことで、世界的に知られることとなりました。マリメッコのアイコンックで明るく表情豊かなプリントデザインは、ファッションやグラフィック以外にもインテリアや建築などライフスタイルの全てに広がり、今日まで人々の暮らしを彩ってきました。本章では、貴重なアーカイブ資料や映像、ファブリックの歩み、伝説的なモデル「マリミニ」の物語を通じ、ラティアの価値観がいかにしてタイムレスかつ独創的なデザインへと昇華されたかを象徴的に展示します。

[3]

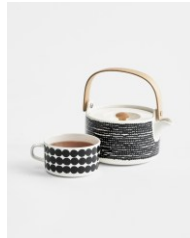


マリメッコ初のファッションショー

[4]

Fun in Finland (1964年)
Photo: Tony Vaccaro/ Tony Vaccaro Archives

[5]

『Oiva』シリーズ：サミル
オツァライネン 図案：マ
イヤ・ロウエカリ(ラシイマツト)
2009年
© Marimekko Oyj
Suomi-Finland Sami
Ruotsalainen/Maija
Louekari 2009

[6]



マリトロ (マリハウス)

[7]

『ウニコ』マイヤ・イソラ 1964年
© Marimekko Oyj Suomi-Finland
Maija Isola 1964

[8]

『セイレーニ』マイヤ・イソラ 1964年
© Marimekko Oyj Suomi-Finland
Maija Isola 1964

[9]

『カイヴォ』マイヤ・イソラ 1964年
© Marimekko Oyj Suomi-Finland
Maija Isola 1964

[10]

『シルトラプーアルハ』マイヤ・ロウエカリ 2009年
© Marimekko Oyj Suomi-Finland
Maija Louekari 2009

[11]

『セツベル』アンティ・ケッキ 2022年
© Marimekko Oyj Suomi-Finland
Antti Kekki 2022

マリメッコの美学 – 時代を超越する色、形、パターン

There is only one responsibility – Beauty

「日常生活に美しさを取り入れたい」というアルミ・ラティアの思いのとおり、マリメッコのプリントデザインは、大胆な色彩のコントラストと心躍るようなパターンが描かれ、暮らしに喜びと自由なインスピレーションを与えてきました。「完全なる不完全さ」とも言われるように、斬新なデザインの背景には、人の手によるぬくもりと、単なる装飾としてではないフィンランドの自然や機能主義、文化が根強く反映されています。本章ではドレスをキャンバスに見立てることで、現在も息づくマリメッコの美学を、鮮やかで印象的な色や、パターン、走り回れるような機能美に富んだドレスのシルエットを通じて紹介します。



図案：マイヤ・インラ《ウニコ》1964年/クリスティーナ・インラ 2003年
© Marimekko Oyj Suomi-Finland Maija Isola/Kristina Isola 1964/2003



図案・ドレス：アンニカ・リマラ《カラーヴァ》1967年/《ミユスキユフテ》1968年
© Marimekko Oyj Suomi-Finland Annika Rimala 1967/1968



図案・ドレス：アンニカ・リマラ《ランケッティ》1963年/《ビルグイ》1964年
© Marimekko Oyj Suomi-Finland Annika Rimala 1963/1964



図案・ドレス：アンニカ・リマラ《イソ ライネ》1965年/《ナッピメッコ》1967年
© Marimekko Oyj Suomi-Finland Annika Rimala 1965/1967



図案・ドレス：アンニカ・リマラ《ライネ》1965年/《ティエラ》1966年
© Marimekko Oyj Suomi-Finland Annika Rimala 1965/1966



図案・ドレス：アンニカ・リマラ《ケイダス》/《モンレボス》1967年
© Marimekko Oyj Suomi-Finland Annika Rimala 1967



図案：アンティ・ケッキ《コルミッコ》2022年/ドレス：《カルクロ》2023年
© Marimekko Oyj Suomi-Finland Antti Kekki 2022/2023



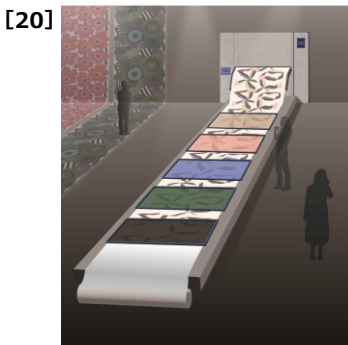
図案：脇阪亮二《カタラ》/ドレス：リーサ・スヴァント《リエユ》1970年
© Marimekko Oyj Suomi-Finland Katsuji Wakisaka/Liisa Suvanto 1970

マリメッコの創造力 – デザイン制作からプリントメイキングまで

There is only one reality – Dream

マリメッコは常に、夢を夢のまま留めず、プリントメイキングの技を通じて、独創的なアイデアを現実のものへと変えてきました。プリント・ファクトリーはマリメッコの心臓部であり、創業当時から現在もなお、アルミ・ラティアの意思を受け継ぎながら、デザイナーやアーティスト、プリント制作の職人が協働し数多くの作品を生み出しています。

本章ではイメージを形づくる場——デザイナーやプリント・ファクトリーに着目し、映像、ファクトリーの道具や資料、デザイン画を通じてマリメッコの創造のプロセスを可視化します。また、アートユニット・plaplastがプロジェクションによるダイナミックな展示空間を創作。マリメッコのひらめきが形になる世界を体感いただけます。



plaplastによる展示空間イメージ
※画像はイメージです。



マリメッコ社のファクトリーにて、ファブリックがプリントされる様子
Photo: Yuki Ogawa



アンティ・ケッキのアトリエ
Photo: Takuya Nagata



マイヤ・ロウエカリのスケッチ
Photo: Yuki Ogawa

皆川 明との新たなクリエイティブ・ダイアログ 国境・領域・時を超えて

There is only one strength – Love

人と人との交流は、マリメッコにとってプリントメイキングの根幹を成すもので、「人々が集えば本物で意味あるものを創造できる」という信念のもと、今日までに多くのクリエイターたちと共同作業しながら新しい創造性を生み出してきました。

今回は、マリメッコとは異なる文化や視覚的要素を持ちながらも、その「ものづくりの精神」においてマリメッコとの繋がりを持つデザイナー・皆川 明を取り上げます。本展のために、皆川がデザインし、マリメッコのプリント・ファクトリーで制作されたファブリックを用いて、皆川とマリメッコとの創造的協働の象徴となるインスタレーションを公開します。

[24]



皆川 明 (左) とマリメッコのデザイナー・ディレクター Minna Kemell-Kutvonen (右)
マリメッコ社のファクトリーにて
Photo: Yuki Ogawa

[25]



マリメッコ社にてプリントのカラーを選定する様子
Photo: Yuki Ogawa

皆川 明

【プロフィール】

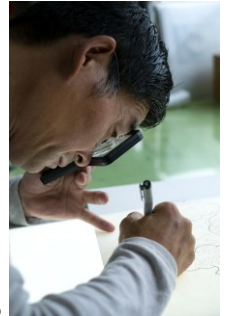
ファッション・テキスタイルブランド「mina perhonen」創設者、デザイナー

1995年に「mina perhonen(ミナ ペルホネン)」の前身である「mina」を設立。ハンドドローイングを主とする手作業の図案によるテキスタイルデザインを中心に、衣服をはじめ、家具や器、空間ディレクションなど、日常に寄り添うデザイン活動を行っている。国内外のテキスタイルブランドへのデザイン提供、新聞・雑誌の挿画なども手掛ける。2006年毎日ファッション大賞、2015年毎日デザイン賞、第66回芸術選奨文部科学大臣新人賞、2025年毎日ファッション大賞選考委員特別賞受賞、フィンランド獅子勲章騎士一級章受章。

【コメント】

Marimekkoは創業以来優れたデザイナーによって時代とその暮らしを照らすテキスタイルデザインを発表してきました。今日までそれらのデザインはフィンランドにとどまることなく世界中の人々の暮らしにおいて楽しさと心豊かになる感動を生み出しています。そしてどのデザインも時代的な流行に流されることなく時代を受け継ぐクリエイティブチームによって大切にアーカイブとして復刻やアレンジを加えながら現代的な価値を持ち続けています。今回のインスタレーションでは、Marimekkoが積み上げてきた歴史から生まれるDNAや、それらが繋がっていく様子を表します。鑑賞者には楽しさと美しさ、そしてMarimekkoの未来への期待を感じていただけたらと思います。

Photo :Yayoi Arimoto



[26]

参加アーティスト

plaplax (プラプラックス) 近森 基、小原 藍

【プロフィール】

みる人と作品がお互いにやりとりをする作品づくりを軸に、展覧会の構成や、空間の演出、映像の企画制作など領域を横断しながら活動している。扱うテーマやモチーフのなかに潜んでいる物語を掘り下げ、創造的な学びや発見のある体験づくりに取り組む。近年の仕事に、「デザインあ展 (2013、2018-2021、2025-)」、「いわさきちひろぼつご50ねん こどものみなさま (2024)」の年間展示ディレクター、「レオ・レオーニの絵本づくり展 (2025)」3章レオレオリウム! の展示構成、Eテレ「デザインあneo コーナー パラメーター (2021~)」の企画制作など。

<https://plaplax.com/>

【コメント】

今回の制作にあたり、ヘルシンキのMarimekko本社のプリント工場を見学する機会をいただきました。外光溢れる工場では、Marimekkoのシャツを纏った個性豊かな職人さんたちがそれぞれの仕事をしていて、中でも、シルクスクリンプリントの工程は特に印象深いものでした。真っ白の生地の上に、色ごとの版がセットされ、職人がインクをピュッと版の上に投げ広げると、丸棒がコロコロとインクを押し広げ…。色鮮やかな形が次々に重なり、馴染みの柄になっていく様子は、本当にずっと見ていられる光景でした。展示ではこの工程を、大型のインスタレーションでご紹介します。模様に入れられたデザイナーたちの思いや工夫、フィンランドの息遣いを会場を感じていただけたらと思います。



左から小原 藍、近森 基 Photo: Yuki Ogawa

[27]

デザイナー 田部井 美奈

【プロフィール】

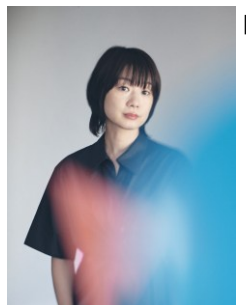
アートディレクター・グラフィックデザイナー。2003年より服部一成氏のもとで活動し、2014年に独立、田部井美奈デザインを設立。広告、書籍、パッケージ、展示、空間構成などの領域において、色彩や幾何学を軸に、平面と立体を行き来するような視覚表現に取り組む。主な仕事に「武蔵野美術大学」のイメージビジュアル、「マティス展」、「奥能登半島／石川直樹』『ミライの源氏物語／山崎ナオコラ』の装丁、「(NO) RAISIN SANDWICH」、「Mame Kurogouchi」のパッケージデザイン、展示「光と図形と、その周辺」など。第28回亀倉雄策賞、2019年東京ADC賞など受賞。AGI (国際グラフィック連盟) 会員。

<https://minatabei.com/>

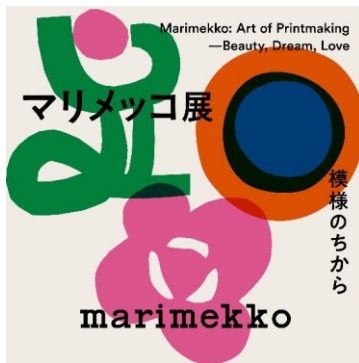
【コメント】

Marimekkoのプリントデザインは、色彩・形・構成によって、ファブリックのためのパターンにとどまらず、グラフィックとしての強い魅力を持っていると感じています。それが、どの時代においても新鮮なビジュアル表現として成立し続けている理由のひとつだと思います。本展のキービジュアルでは、異なる時代に3人のデザイナーが制作した図柄を、重なり合うように構成し、新たな色、形が生まれています。さらに文字要素が加わることで、すべての要素が対等な関係で混ざり合い、互いに呼应し合うような状態を目指しました。この感覚は、私自身のグラフィックデザインの実践とも深く重なっています。

Photo: Masaki Ogawa



[28]



展覧会のキービジュアルは、3人のデザイナーによるファブリックパターンの模様で構成されています。マリメッコのプリントデザインにおいて特徴的なのは、有機的で手作りの温もりを感じさせる表現であり、マリメッコが不完全さの美しさと呼ぶ感覚です。わずかな揺らぎやムラをあえて残すことで、プリントに生命感が生まれます。また、フラットスクリーン印刷による色の重なりから生まれる「第三の色」も重要な要素。色彩が重なり合うことで、奥行きと豊かさを感じさせます。これらの要素を反映し、「マリメッコ」を表現したキービジュアルをデザイナー・田部井美奈が制作しました。

模様について

右上：Klaava by Annika Rimala（アンニカ・リマラ）

フィンランド語で「コインの裏」を意味する「Klaava」は1960年から1982年までマリメッコでデザイナーとして働いていたアンニカ・リマラが1967年に制作しました。ヤングカルチャーからの影響を最も強く受けていた時代に制作されたリズムカルな作品です。

下：Viidakko by Pentti Rinta（ペンティ・リンタ）

フィンランド語で「ジャングル」を意味する「Viidakko」は1969年から1987年までマリメッコでデザイナーとして働いていたペンティ・リンタが1981年に制作しました。熱帯の巨大な空想の花々が描かれ、まるで冒険への誘いのように。彼は、小さく抑制されたプリントも、印象的で目を引く大胆なパターンも、同様に見事に制作しました。

左上：Seppel by Antti Kekki（アンティ・ケッキ）

フィンランド語で「花輪」を意味する「Seppel」はアンティ・ケッキが2022年に制作しました。ユニッコ誕生60周年を記念し、マイヤ・イソラのアイコンックな「ユニッコ」に寄り添うデザインとして誕生しました。特に、花の茎が柔らかな弧を描いて重なり合い、木の輪に似ていることからインスピレーションを得ています。華やかなセッペル柄は、ケッキの得意とするスタイルを生かし、紙を切り抜き、曲線を組み合わせたものです。

Marimekkoについて

マリメッコはフィンランドのデザインハウスであり、世界に先駆けて誕生したライフスタイルブランドのひとつ。1951年にアルミとヴイリョ・ラティア夫妻によって設立され、喜びにあふれた人生とよりよく生きるための哲学を体現することをモットーとする。

高い美的感覚に基づくプリントづくりの技で世界的に知られ、ヘルシンキにある自社のプリント・ファクトリーでは、アーティストやデザイナーたちが熟練した職人たちと協力し、オリジナリティを追求している。すべての製品をードレスであれ、食器であれ、テキスタイルであれ—アートを生み出すキャンバスと捉えている。

マリメッコの基盤となるデザイン哲学は、価値と質の両面において、永きにわたり色褪せることのないタイムレスなデザインを創造することである。

【広報画像申込フォーム・注意事項】 マリメッコ展

広報用画像を提供いたします。ご希望の場合は下記よりお申込みください。

【申込フォーム】

<https://forms.gle/1faB7QN4C88SYoKg6>

※入力難しい場合は、広報事務局までお問い合わせください。

【広報用画像使用に関する注意事項】

- 写真の使用は本展覧会を紹介する場合に限らせていただきます。
- 展覧会名、会期、会場、クレジットは必ず記載してください。
- 画像は全図でご使用ください。トリミング、文字乗せなどの加工はできません。
- WEBにてご掲載の場合には、コピーガード（※右クリック不可）を施しダウンロード不可にしてください。
- 基本情報、画像使用などの確認のため、グラ刷り・原稿段階のものを「PR事務局」にお送りください。
- 掲載・放送後は、必ず掲載紙（誌）、掲載URL、同録DVDを下記「PR事務局」までお送りください。



[広報画像申込書・クレジット] マリメッコ展

【クレジット一覧】ご希望の画像番号の□に✓をお願いします。

番号	クレジット一覧
1□	展覧会キービジュアル 右上：Klaava, Annika Rimala, 1967/ 下：Viidakko, Pentti Rinta, 1981/ 左上：Seppel, Antti Kekki, 2022
2□	創業者のアルミ・ラティア（1912-1979）
3□	マリメッコ初のファッションショー
4□	Fun in Finland (1964年) Photo: Tony Vaccaro /Tony Vaccaro Archives
5□	「Oiva」シリーズ：サミル・オツァライネン 図案：マイヤ・ロウエカリ《ラシマット》2009年 © Marimekko Oyj Suomi-Finland Sami Ruotsalainen/Maija Louekari 2009
6□	マリタロ（マリハウス）
7□	《ウニッコ》マイヤ・イソラ 1964年 © Marimekko Oyj Suomi-Finland Maija Isola 1964
8□	《セイレーニ》マイヤ・イソラ 1964年 © Marimekko Oyj Suomi-Finland Maija Isola 1964
9□	《カイヴォ》マイヤ・イソラ 1964年 © Marimekko Oyj Suomi-Finland Maija Isola 1964
10□	《シイルトラプータルハ》マイヤ・ロウエカリ 2009年 © Marimekko Oyj Suomi-Finland Maija Louekari 2009
11□	《セツベル》アンツァティ・ケッキ 2022年 © Marimekko Oyj Suomi-Finland Antti Kekki 2022
12□	図案：マイヤ・イソラ《ウニッコ》1964年/クリスティーナ・イソラ 2003年 © Marimekko Oyj Suomi-Finland Maija Isola/Kristina Isola 1964/2003
13□	図案・ドレス：アンニカ・リマラ《クラヴァ》1967年/《ミュリュスキュリュフテユ》1968年 © Marimekko Oyj Suomi-Finland Annika Rimala 1967/1968
14□	図案・ドレス：アンニカ・リマラ《ランケッティ》1963年/《ピルヴィ》1964年 © Marimekko Oyj Suomi-Finland Annika Rimala 1963/1964
15□	図案・ドレス：アンニカ・リマラ《イソライネ》1965年/《ナツビメッコ》1967年 © Marimekko Oyj Suomi-Finland Annika Rimala 1965/1967
16□	図案・ドレス：アンニカ・リマラ《ライネ》1965年/《ティエラ》1966年 © Marimekko Oyj Suomi-Finland Annika Rimala 1965/1966
17□	図案・ドレス：アンニカ・リマラ《ケイダス》/《モンレポス》1967年 © Marimekko Oyj Suomi-Finland Annika Rimala 1967
18□	図案：アンツァティ・ケッキ《コルミッコ》2022年/ドレス：《カルケロ》2023年 © Marimekko Oyj Suomi-Finland Antti Kekki 2022/2023
19□	図案：脇阪克二《カタラ》/ドレス：リーサ・スヴァント《リエユ》1970年 © Marimekko Oyj Suomi-Finland Katsuji Wakisaka/Liisa Suvanto 1970
20□	plapluxによる展示空間イメージ ※画像はイメージです。
21□	Photo: Yuki Ogawa
22□	Photo: Takuya Nagata
23□	Photo: Yuki Ogawa
24□	Photo: Yuki Ogawa
25□	Photo: Yuki Ogawa
26□	皆川 明 Photo: Yayoi Arimoto
27□	plaplux Photo: Yuki Ogawa
28□	田部井 美奈 Photo: Masaki Ogawa

貴社名／	ご所属部署／
ご担当者／	TEL／
E-mail／	
貴媒体名／	媒体種／
掲載号・露出予定日／	月号（ 月 日号）／ 月 日発売予定 □WEBへの転載あり
サイトURL／	
媒体プレゼント用チケット／□希望（2組4名まで）※1点以上の広報用画像使用必須。発送は開幕直前になります。	
お送り先／〒	

報道に関するお問合せ

「マリメッコ展」京都会場PR事務局（ネネラコ内）
 E-MAIL / marimekko_ex2026_kyoto@nenelaco.com TEL / 06-6225-7885 FAX / 06-7635-7587
 〒531-0072 大阪市北区豊崎3-15-5 TKビル